「居場所と拠り所（よ どころ）」

第１組願了寺　篠田　法道

月日が経つのは早いもので大阪から自坊の岐阜へ帰って丸２年が経ちました。自分の人生の半分以上過ごした場所から地元とはいえ生活環境が変化することについて当時は戸惑いもあったように思い返します。当時は仕事も順調でやり甲斐もあり、日々忙しくしながらも一生懸命で、気の合う友人や同僚とお酒を酌み交わして、家に帰れば妻と子ども達が帰りを待っている。といったように充実した生活を送っており、私にとってその環境が最高の居場所であり拠り所だったのかもしれません。

ただ、そんな時に自坊の都合とはいえその環境を離れなければいけないという事になり、言い方が悪いかもしれませんが、正直私にとっては大切な居場所を奪われた気がしました。人は自分の居場所を奪われると、とても不安な気持ちになります。なぜならば、それらの場所は自分が安心できる場所だからではないでしょうか。

例えば電車やバスのいつも自分が座る場所に違う人が座っていたり、よく行く居酒屋のいつも座る席に既に違うお客さんが座っていたり、簡単に言えば家のソファだって何となく座る場所が決まっているように思います。

私たちは勝手にそれらの場所を自分の指定席だと思い込み、ときには奪われ

たとさえ思えてくるのです。私たちは常に安心できる場、拠り所を探し求めて生きているのではないでしょうか？居心地の良い場所、安心できる場所。その時々によってその場所が変わってくることがあったとしても拠り所を求めない人はいないと思います。それらは人によってはお金であったり、地位であったり、家族であったり、友人であったり様々だと思いますが、それらはすべてが自分の都合や思い、計(はか)らいによって様々な形に変化してしまうもの、またどれもが永遠で確かなものではく、かりそめであり、不確実なものではないでしょうか。私自身も自分の力や行いでどうにかなる。と思っているからこそ迷い、自分を見失い、阿弥陀仏を見失う。阿弥陀仏の本願が自分を照らし続けていることになど全く気付いてなかったです。

私達が宗(むね)とする「浄土真宗」は浄土を真の拠り所にして生きていく教えです。私たちが求めようが、求めなかろうが阿弥陀仏がすべての衆生を救うと誓われておられるのです。それだけは確かなことであり、本当の拠り所としてよい場所ではないでしょうか。あとは私達自身が自分ではどうしようもできないと気付き、万歳した時点でそこは地獄だろうがなんだろうが私達にとっては必然的な居場所になるのではないでしょうか。

私自身の生活環境が変わったことによって改めて自分の居場所、拠り所を見つめ直すことができたような気がします。それらはすべて自分の都合や思い、計

らいによってでしか作られなかった虚像なのかもしれません。それでも私はきっとまた新しい居場所や拠り所を繰り返し探し続けると思います。そして、悩み、迷ったときには聞法することにより自分の居場所を確認していきたいと思います。